

## 令和5年9月定例会 代表質問 上田井良二議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

### 「香芝市の各教育施設の再編について」

○上田井良二 改めまして、こんにちは。

香芝市議会公明党を代表いたしまして、上田井良二が質問をさせていただきます。

最近市民の皆様よりご質問やお尋ねの案件を多くいただいております学校や幼稚園、保育所の再編等に関することについて、これまでの背景や状況、また幾つかの課題等を市がどのように捉えているか、またそれらを、再編計画の基本的な方針や方向性を市がどう考え、策定してきたのかをお聞きしたいと思っております。

まず1点目に、学校施設の再編等に関する基本方針について、現在見直しを進めております香芝市立学校施設等の長寿命化計画の見直しの背景について教えていただけますでしょうか。

壇上での質問を以上で終わります。

○教育部長 見直しの背景でございますけれども、令和4年2月の教育委員会会議における関屋小学校の改修の見直しの動議、また令和4年3月議会一般質問におきまして計画の妥当性に疑義があるご指摘をいただきました。また、その中で小西教育長の令和4年度中には全体構想の青写真を作成するというご答弁もあり、令和4年3月の教育委員会会議におきまして香芝市学校施設等長寿命化計画の見直しについてお諮りし、議決をいただいたもので、今回香芝市学校施設の再編等に関する基本方針を作成したものでございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

それでは、その令和4年3月議会での指摘の内容についてはどのようなものがあつたのか教えていただけますか。

○教育部長 公共施設の将来の更新費用の状況や当時改修予定であつた関屋小学校の改修の方向性について、また関屋小学校が土砂災害警戒区域にあることについての考え方などについてございました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。教育委員会や議会でのそれぞれ指摘もあつて今回見直しを始められたようですけれども、そもそも令和2年3月作成の香芝市学校施設等長寿命化計画には適正規模や再編についての考え方はなかつたのでしょうか、そのあたりを教えていただ

けますか。

**○教育部長** 今回見直しを行うことになった令和2年3月に作成しました香芝市学校施設等長寿命化計画でございますが、上位計画である平成28年11月に作成された香芝市公共施設等総合管理計画において、公共施設の将来更新費用の試算では現状では香芝市保有施設の約3分の1しか更新できない状況である、学校施設においては児童・生徒の推移も踏まえながら学校の適正規模、適正配置を検討する必要がある、あわせて複合化や多機能化で教育環境の向上と地域の拠点化の検討が必要であるとなっていることから、それに基づき策定したものでございます。

以上です。

**○上田井良二** ありがとうございます。

そうしましたら、その内容というのはどのようなものなのでしょうか。

**○教育部長** 目指すべき姿の実現ということで、その姿の実現にあっては児童・生徒数の変化に合わせて適正規模化が必要になるため、学校再編にも積極的に取り組むこと、また適正規模、適正配置と連動した学校施設整備の推進として、小規模校化が進行する学校について、将来的には適正規模、適正配置による隣接校との集約化や小中一貫教育など学校規模や教育環境の適正化に向けた検討を優先的に進めることとしておりました。

以上です。

**○上田井良二** ありがとうございます。今お話しされた目指すべき姿とは今後学校の環境を整備する上での考え方だと推測いたしますが、それについてはどのような内容なのでしょうか。

**○教育部長** 多様な情報に触れられるICTを活用した教育に対応可能な教室など自ら学ぶ授業や多様な学習形態を取り入れやすい環境整備、また子育て関連施設等との複合化、セキュリティー機能強化で学校の負担にならない管理運営に配慮したもの、誰もが利用しやすいバリアフリー化、避難時に必要なスペースや設備等機能整備、また防災機能の強化などを取り入れた学校、そういったものでございます。

以上です。

**○上田井良二** 分かりました。ありがとうございます。

それでは、令和2年3月の計画作成時にはどのような考え方や意見があったのでしょうか、それを教えていただけませんか。

**○教育部長** 計画策定業務の中では、三和小学校と鎌田小学校、志都美小学校と旭ヶ丘小学校などでは再編も考える必要がある、校区の弾力化も検討していく必要がある、小中一貫で集約化が現実的、また関屋小学校は土砂災害警戒区域に指定されてること、また将来の児童分布などを考えたときに児童の減少時期に合わせて香芝西中で小中一貫校にするのがよいのではない

かなど、そういった意見のほうが出されておりました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

そうしましたら、今回作成されました方針に出ているような話合いがされてたということになるんですけども、では当時総合教育会議においても諮られたと聞いておりますが、そちらではどのような意見が出ておったのでしょうか。

○教育部長 総合教育会議のほうでは、再編計画も含めて集約を図りながら適切な投資のほうに進んでもらいたい、適正規模、適正配置で小中一貫校は有効である、またクラス替えや多様な価値観などを考えると適正規模にするほうが子供たちにとって大事である、通学距離が長くなる部分の対応をどうするか、この辺は懸念材料として上がっておりました。学校は教育の場、学習の場、安全・安心を中心に考えるべき、バリアフリーやスロープやWi-Fiも必要、跡地利用について避難所も含めて検討が必要など、そういったご意見のほうがあとは上がっておりました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。今お聞きしますと様々な課題などの意見なども出ていたということなようですけれども、今までの答弁をお聞きしますとそもそも元の計画においても、上位計画である平成28年11月作成の香芝市公共施設等総合管理計画において現状のままでは保有施設の約3分の1しか更新できない状況であるということや児童・生徒が減少していくことから複合化、集約化を行い、適正規模、適正配置で教育環境の向上をいろんなことを考えながら前へ進めてかなくちゃいけないということが分かったんだということよろしいのでしょうか。

○教育部長 議員おっしゃるとおりでございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

そうしましたら、適正規模、適正配置についての考え方が含まれた計画であったにもかかわらず、今回指摘を受けて見直すことになった理由は何なのでしょうか。

○教育部長 計画の中では、施設の更新を行っていくと3分の1程度しか更新できないため適正化を優先的に進めるとなっているにもかかわらず、その方向性が明記されていませんでした。現状の計画のままで全ての施設の老朽化対策を進めていくと破綻してしまうことになり、計画に妥当性がないためでございます。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

そうしましたら、関屋小学校については先ほど説明の中で児童の減少時期には香芝西中との

小中一貫校を進めるようなご意見もあったようでありますし、そういうふうにお聞きしましたけども、なぜ改修予定を変更して移転を前倒しするような方針になったのか、そのあたりをお聞かせいただけますか。

**○教育部長** 令和4年2月の教育委員会議の中で、委員からの質問で改修工事に係る工事費や補助金についての質問がございました。その中で、当初予定していた10億円以内で収めるという予定を上回り財政的に負担が大きくなることから、トイレの洋式化や水回りについては進める必要があるが、将来の移転や小中一貫校の考え方もある中で、機能回復に多額の費用をかけるよりも移転についての計画を進めることで新しい学校に資源を集中する方法もあるので、そういった費用面と子供たちの環境整備について検討し、よりよい方向で進めることを検討するようにと見直しの動議がございましたので、改めて今回の見直しに含めさせていただいたところでございます。

以上です。

**○上田井良二** ありがとうございます。

では、今回のその方針の位置づけはどのようなものなんですか、端的にお願いいたします。

**○教育部長** 今後現在の香芝市立学校施設等長寿命化計画の見直しを進めていくための教育委員会としての方向性をお示ししたものでございます。

以上です。

**○上田井良二** ありがとうございます。令和2年3月の計画作成段階で検討していたが明記されていなかったことを今回方針として明記されたということでしょうか。

**○教育部長** 多少の違いはあると思いますが、おおむねそのように考えております。

以上です。

**○上田井良二** では、今後この方針を基に計画を見直されると考えますけれども、どのように進めていくのでしょうか、そのあたり教えていただけますか。

**○教育部長** 今後については、まずこの9月議会に上程させていただいてます附属機関、望ましい学校環境検討委員会、これの設置について可決いただけましたら、今回作成いたしました方針について内容や考え方等について検討いただき、そこから答申をいただいた後に改めて教育委員会議にお諮りし、次のステップの個別計画の見直し、こちらのほうに着手してまいりたいと考えております。

以上です。

**○上田井良二** ありがとうございます。これまで質問した中で、適正な規模化を行わないまま施設整備を行っていくと財政的に困難になることが分かったと、子供たちにとって望ましい環境を整備するために、既に認識されているいろんな課題がございましたけれども、それをメリ

ット、デメリットなども含めた検討をこれから附属機関として設置される委員会で様々な方向から検討をこれから行うということですよ。それでしたら、地域性を生かしながら保育機能を併用させたこともあるように、今後とも子供たちの安心・安全な教育施設の再編に全力で取り組んでいただきたいと思います。当然ながら再編に関しましては、市民の皆様、特にお子様、私もたくさんのお尋ねいただきましたお子様をお持ちのお母さん、特にお母さんですよ、ご心配されてるのは、日々の生活に関わってきますから、そのあたり、しっかりと事前説明をしていただきたいと思いますというふうにも思います。どこかの行政によりますと、こども園を、市のど真ん中ですかね、1か所据えることによって地域性が損なわれたと。いろんな形で市は考えるんですけども、やはり100%ご父兄の方々にこれは大丈夫やという言い方になる結果ができないかもしれないですけども、そのできない方々に対してもしっかりとフォローを、それこそそのフォローが100%できるようにしっかりとまた今後とも考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、2つ目の公立幼稚園及び保育所の再編等に関する基本方針についてお伺いしたいと思います。

まず初めに、令和5年3月議会において公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針の改定を提案されましたが、提案されました理由を教えてください。

**○福祉部長** 3月議会にて提案をさせていただきましたのは、令和元年7月に策定いたしました公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針が3年を経過し、策定時以降に方向性が確定しました事業に方針を合わせるため、改定をしたものでございます。

以上でございます。

**○上田井良二** ありがとうございます。

では、令和元年7月に公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針、この策定に至った経緯を教えてくださいでしょうか、まずはどのような課題があったのでしょうか。

**○福祉部長** 保育を希望する家庭の増加により特に低年齢の待機児童が増加する一方で、幼稚園におきましては2年保育のみを行っている幼稚園の入園希望者は減少傾向にございましたが、預かり保育等の保育サービスの希望が多い状況でございました。また、施設は、築30年を経過した施設が大半であり、老朽化が進んでいる状態でございました。これらの課題を解決するという必要がございました。

以上でございます。

**○上田井良二** ありがとうございます。まずは、公立幼稚園及び公立保育所の再編方針を進めるにはどのような形で計画を進めようと考えておられるのでしょうか、教えてください。

**○福祉部長** 全ての子供たちに安心・安全な環境を将来にわたって持続可能なものとするため

に小学校区を基本にこども園化を進めていきたいと考えてございます。また、量の確保につきましては私立と連携するとともに、将来の運営等についても民間活力の導入も含め、考えてまわりたいと思っております。

以上でございます。

○上田井良二 考え方は分かりました。

では、具体的に小学校区にこども園を設置することによってどのようなことにつながっていくかお考えになってるのでしょうか。

○福祉部長 方針を進めることで受入れ拡充による待機児童の解消につながると考えてございます。また、ゼロ歳児から就学前までの子供の発達過程を踏まえた教育、保育の保障、地域における子育て支援の充実にもつなげていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

では、公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針には保護者の皆様のご意見等は反映されてるのでしょうか。

○福祉部長 再編方針の策定に際し、平成 30 年 6 月に香芝市在住のゼロ歳児から 5 歳児のお子様を持つ保護者様 1,000 名を対象に無作為抽出で就学前保育、教育に関する意識調査を実施させていただきました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

では、具体的に、された意識調査ですか、その内容を教えていただけますか。

○福祉部長 公立幼稚園、保育所、認定こども園の再編は必要かの問いに対しましては、再編は必要であると回答された方は全体の 53.3%の方が必要であるという回答をいただいております。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。半数以上の方が必要であると回答されているようですが、では再編を実施するにはどのような方法が考えられるというような調査はされてるのでしょうか。

○福祉部長 再編方法としましては、幼稚園、保育所、認定こども園を統廃合するという回答をされた方が 47.7%で全てを認定こども園に移行すると回答された方が 28.5%ございました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

では、今回の再編方針でよく言われますように民間を誘致したり民間さんへの移行を考えて

おられるようではございますが、そのことについての調査はされてますか。

○福祉部長 民間へ移行することに対する期待というところでは、幼児教育の充実が一番多く、31.8%でございました。次に、音楽や体操、英語等教育の充実が29.4%となっておりました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

じゃあ、逆に民営化に懸念しているということは聞かれなかったんでしょうか、そのあたり、あれば教えてください。

○福祉部長 民営化に対して不安に思うことにつきましては、保育料以外の料金が高くなるのではないかとというのが最も多く、62.2%ございました。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

では、いろんなアンケートを取っていただいたようですが、このことから今後どのように方針を進めていこうと考えておられますか。

○福祉部長 保護者の皆様には丁寧な説明が必要であると考えてございます。また、教育等の充実が必要であると考えておられる方も多く、そして料金等の不安もあることから、公立並みの料金でサービスの向上、こちらを図る方法を考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○上田井良二 ええことばかり言うてるけど大丈夫ですか、そのあたり、しっかり検討をお願いしたいと思います。

では、具体的に公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針、これの策定の期間を教えてください。

○福祉部長 策定の期間でございますが、令和元年から1期を5年と考えてございまして、現在3期までを考えております。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。

そうしましたら、公共幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針、これを進めるに当たっては保護者等の皆様にしっかりと説明をしていただけると、再確認したいんですけど、このあたりどうでしょうか。

○福祉部長 再編方針を進めるに際しましては、地域住民や保護者の皆様には十分な説明を行い、理解をしていただいた地域から事業を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○上田井良二 ありがとうございます。しっかりとお願いしたいと思います。

公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針、これを進めることにより考えておられる未来像あれば教えていただけますか。

○福祉部長 将来を担う香芝市の子供たちが安心して過ごせる環境を整えていくとともに、子育てをされている保護者様の皆様の支援につながればと考えてございます。公立幼稚園及び公立保育所の再編を行うに際しましては、ご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、質の高い教育、保育を提供し続けるためにご協力のほうをお願いしたいと思っていますところでございます。

以上でございます。

○上田井良二 ありがとうございます。いろいろと質問させていただきましたけども、こちらも学校の再編と同じで、特に香芝市は先ほども言いましたように一つのところに大きな箱物を造ってそちらにっていう考えではなく、幼稚園の空き教室を利用した保育等も考えておられたところでございますけれども、やはり一部のこども園化におきまして説明不足、遅れがあって非常に疑惑を持っておられる方もおられると思います。しっかりと説明を十分にさせていただいて、今後ともしっかりと子供たちの安全・安心のための学校教育また保育機能を進めていただきたいなと思いますので、そのあたり、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

#### 「带状疱疹について」

○上田井良二 それでは、大きな2番、带状疱疹についてに行きたいと思います。

これも昨年の6月、1年3か月ほどたつんですけども、一般質問で私自身が带状疱疹のワクチンの接種の費用を補助してくれませんかといろんな形で質問させていただきました。それ以降、あのときの答弁として調査研究をやっていきますという答弁もいただきましたけども、その後現在の状況、どのようになっているかは把握されてるんでしょうか、そのあたり教えていただけますか。

○健康部次長 製薬会社の調べによりますと、令和4年4月時点で28の自治体が带状疱疹ワクチン接種に係る補助を実施しておりましたが、令和5年8月1日時点では全国272市町村で補助を実施している状況となっております。

以上です。

○上田井良二 ありがとうございます。私もびっくりするぐらい今年の4月からどどっと補助していただいている行政が増えてきております。

では、実際に、奈良県そのときはゼロだったんですけど、今奈良県には補助を行っているところ



ろはあるのでしょうか。

○健康部次長 奈良県内におきましては、山添村が令和5年4月より補助を開始されております。

以上です。

○上田井良二 ありがとうございます。

そうしましたら、その山添村さんの補助の内容分かるでしょうか、教えてください。

○健康部次長 山添村の補助の内容でございますが、50歳以上の方を対象に接種された費用に対し3,500円の補助をするものとなっております。

以上です。

○上田井良二 ありがとうございます。皆さんも、私自身、前回質問させていただいた後ですかね、その前後からテレビコマーシャルもするようになったと、やっぱりちょっと注目されるんかなって思いもあったんですけど、最近よくテレビのCMでも带状疱疹、特にワクチンがあるというようなPRを目にされたことがあったと思います。

では、実際にワクチン接種の自己負担の費用は皆さんどれぐらいかご存じでしょうか。自己負担の費用としましては、そのワクチン2種類あるんですね、生ワクチンと不活性化ワクチン、生ワクチンについては1回8,000円程度、不活性化ワクチン、こちらのほうが効きはいいようですけども、1回2万円を2回、合計4万円要ということなんです。お仕事されてる50代以上の方が対象になるようですけども、お仕事されてる場合でも日頃の生活してるようやったらやっぱり4万円っていうたらすごい厳しいように思うんですけども、特に年金生活をされてる高齢者の方には非常に厳しい金額ではないかなというふうにも思います。先ほど答弁でありました全国272自治体を実施されている平均の補助額は、生ワクチンの8,000円に對しまして約7割の自治体が4,000円から6,000円になっておるようでございますし、不活性化ワクチンの補助については約4割が1回に2万円に対して1万円から1万1,000円というような大体半額を補助されているというような状況でもございます。また、次に実際に罹患した場合に係る医療費、これも頂いた資料なんですけど、日本の疫学調査に沿って算出された資料なんですけども、香芝市における50歳以上の1年間の带状疱疹発症患者推計と医療費試算によりますと大体年間377人が带状疱疹に罹患しておると、そのうちの20%が带状疱疹神経痛等の後遺症が残るというような結果が出ておるようでございます。これら含めまして、この医療に対する香芝市の試算としては医療費が2,245万円かかるという試算が出ております。

そこで、お聞きしますけれども、それに対して带状疱疹ワクチンの任意接種、これ、大体全国で4%というふうに仮定しておるようでございますけど、それに仮定した場合の予算はどれぐらいかかるのでしょうか、教えていただけますか。

○健康部次長 令和5年4月1日時点の香芝市の50歳以上人口で3万5,034人の4%に対しまして不活化ワクチンの接種費用の半額を費用助成した場合、必要な予算額は約2,800万円となります。

以上です。

○上田井良二 ありがとうございます。带状疱疹ワクチン接種は、現在まだ任意接種なんですよ。CM等でワクチン接種のことを目にする機会が増えておりますけれども、国の定期接種化、これの動きは現在どうなってるのでしょうか。

○健康部次長 厚生労働省は、带状疱疹を防ぐワクチンを定期接種とする検討を進めておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、2018年6月以降は審議がなされない状況となっております。しかしながら、令和5年8月9日付の報道資料によりますと、発症を予防できる期間や費用対効果、接種対象や回数などの知見を整理し、議論を再開したいとの見解を示しております。

以上です。

○上田井良二 ありがとうございます。先ほども言いました、全国的にも今年どかんと補助をする自治体が増えてきております。後遺症のことからも考えますと来年度ぜひとも予算化をしていただきたいというふうに思うんですけども、市長のご意見ここで聞かせていただけますでしょうか。

○市長 带状疱疹ワクチンに関しまして、海外でもワクチン接種が推奨されております。上田井議員おっしゃるように、予防であったり重症化の予防といったことが有効な手段であると、そして最近テレビのCMでもやってらっしゃいます。今上田井議員がご指摘いただいております、予防接種をすることによって医療費が抑えられるじゃないかというふうなこともあり、これはしっかりと考えていかなければならないと思います。ただ、先ほどの予算ベースでいうと、4%でも2,800万円なんで、これが今半額接種ということなるともう少し増えてくるのかなあというふうに思います。上田井議員からご指摘いただいたので私どもで調べさせていただいたところ、じゃあ何%で幾らぐらいになるんだろうということをいろいろ検討させていただきました。すぐに全体っていうのはちょっと難しいかもしれませんが、例えば区切りの年齢、50歳であったり55歳であったりと、このワクチン自体が10年ほどもつというふうなことを考えたらある程度の年齢で何度か打っていただいく、そういったことも一つの方法かなあというふうに思います。今後もこの国の動向ということを注視しながら情報収集を続けてまいりたいと思います。ご意見ありがとうございます。

○上田井良二 市長、ありがとうございます。前向きな意見と捉えさせていただきたいと思えます。私も提案させていただきたかったんですけど、先ほども言いましたけども、私たちの同

僚の議員もかかられたという方がおられます。その方は非常に痛みがあったと。特に、私も思ったんですけど、人間って、歯医者っていうのは年1回歯垢とかを取りに行くのに行ったほうがいいって言うんですけども歯医者っていうのはなかなか痛みが出てこないと行かないと、やはり痛みに対してはすごいあると思うんですよ。50歳以上になったら出てくると、それも水ぼうそうにかかっているなければ出てこないということもあるんですけども、さっきも市長言っておられたように、50歳、すごく補助に費用がかかるのであれば定年を、今、年金を受け取りになられる65歳を一つの区切りとして、患者数からしたら大体半分ぐらいが65歳以上になるのかなということもあるんでそのあたりを年齢で区切っていただくと。たしか肺炎球菌ワクチンも何年生まれから何年生まれ、ちょっとややこしかったですけどもありましたよね、ああいう形でまた区切っていただいてやっていっていただけたらな。ぜひとも奈良県の、別でありましたけど、市として香芝市がトップを切ってぜひとも補助をしていただきたいなというふうにもお願い申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。